

NIID National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

令和2年度希少感染症診断技術研修会
日時：令和3年2月9日(火) 13:45~14:15
場所：共用第一会議室、ウェブ開催

風疹の発生動向と予防接種

国立感染症研究所 感染症疫学センター
多屋 馨子 (たやけいこ)

1

NIID National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

日本で接種可能なワクチンの種類 (2021年2月現在)

＋ 備蓄2種類 (痘そうワクチン、A/H5N1亜型インフルエンザワクチン)

定期接種 (20種類) (対象年齢は政令で規定)		任意接種 (9種類)	
生 7種類	BCG (結核)	生 3種類	流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)
	MR (麻疹風疹混合)		黄熱
	麻疹		带状疱疹 (現行の弱毒生水痘ワクチンを使用)
	風疹	不活化 6種類	破傷風トキソイド
	水痘		成人用ツプリアトキソイド
	ロタウイルス (1価)		A型肝炎
	ロタウイルス (5価)		狂犬病
B型肝炎	髄膜炎菌 (4価結合型)		
DT (シフテリア・破傷風混合) :二種混合	带状疱疹		
DPT (シフテリア・破傷風・百日咳混合) :三種混合			
IPV (不活化ポリオ)			
DPT-sIPV (シフテリア・破傷風・百日咳・セービン株由来不活化ポリオ混合) :四種混合			
DPT-cIPV (シフテリア・破傷風・百日咳・不活化ポリオ(ソークワクチン)混合) :四種混合			
不活化 13種類	日本脳炎 (乾燥細胞培養)	定期接種を定められた年齢以外で受ける場合	
	インフルエンザ	新型コロナウイルスワクチンの接種 開始予定	
	肺炎球菌 (13価結合型)	9価HPVワクチンが2021年2月24日 に発売されます。	
	Hib (ヒブ：インフルエンザ菌b型)		
	HPV (ヒトパピローマウイルス) (2価)		
	HPV (ヒトパピローマウイルス) (4価)		
	肺炎球菌 (23価多糖体)		

2

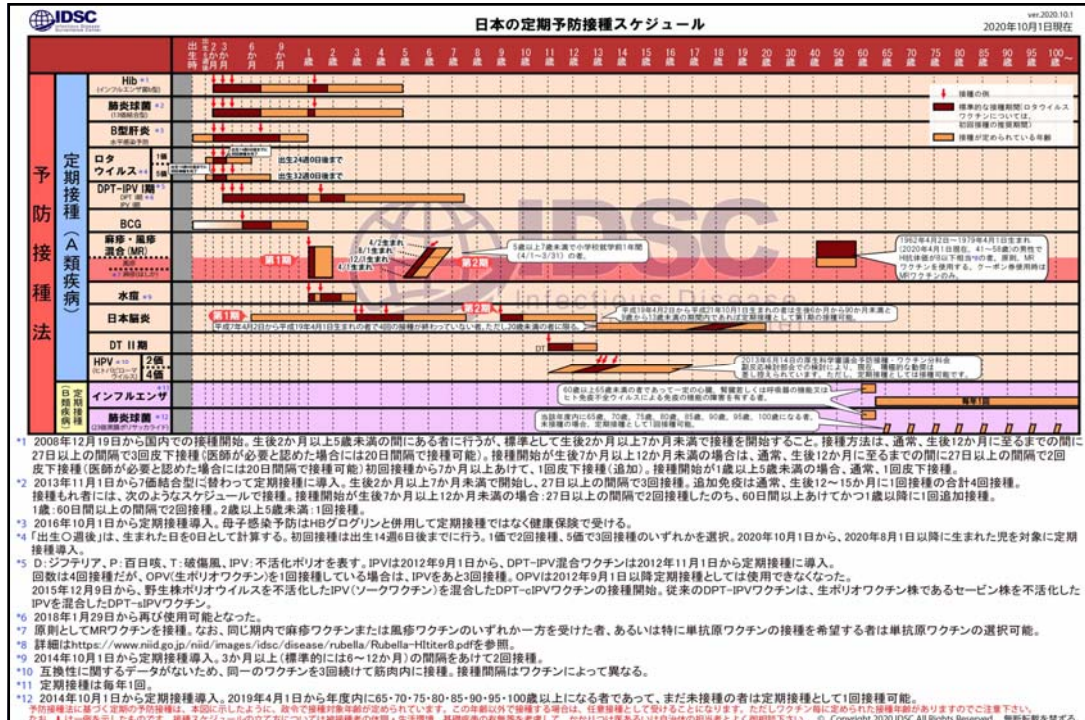
日本の予防接種の制度

	臨時接種	新臨時接種	定期接種 (A類疾病)	定期接種 (B類疾病)	任意接種
法律	予防接種法	予防接種法	予防接種法	予防接種法	—
費用	公費	公費	公費	一部、公費	自費 (一部の自治体では一部のワクチンに対して費用助成あり)
接種に対する国の積極的勧奨	あり	なし	あり	なし	なし
努力義務	あり	なし	あり	なし	なし
健康被害救済制度	予防接種法に基づく制度	予防接種法に基づく制度	予防接種法に基づく制度	予防接種法に基づく制度	医薬品医療機器法に基づく制度

風疹は定期接種 (A類疾病) 対象疾患
A類疾病：国の積極的勧奨があり、本人には受けるように努める義務 (努力義務) がある



3



4

風疹について



- 3主症状は発熱、発疹、リンパ節腫脹
- 潜伏期間は2～3週間
- 飛沫感染・接触感染で感染伝播
- 基本再生産数 5～7
- 発疹出現前1週間と後1週間に感染源となり得る
- 不顕性感染が15～30 (50) %ある
- 合併症として、関節炎、血小板減少性紫斑病、脳炎などがある
- 妊娠20週頃までの妊婦が風疹ウイルスに感染すると、胎児にも感染して、先天性風疹症候群の児が生まれる可能性がある

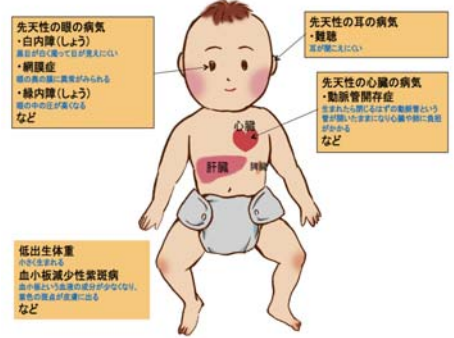


先天性風疹症候群 (Congenital Rubella Syndrome)



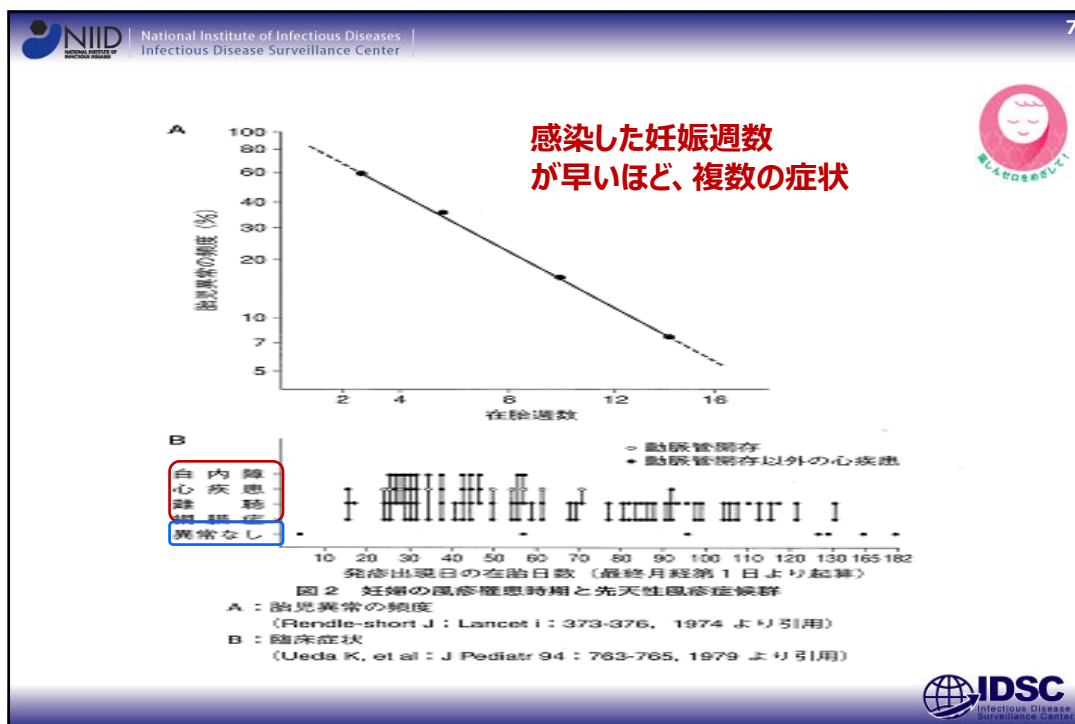
主症状：

- **耳：** 感音性難聴 (最も頻度高い)
- **目：** 白内障、先天性緑内障、色素性網膜症
- **心臓：** 先天性心疾患(動脈管開存、心室中隔欠損、肺動脈狭窄、大動脈縮窄)



- **その他の症状：** 小眼症、血小板減少性紫斑病、脾腫、肝機能異常、小頭症、精神運動発達遅滞、髄膜炎、X線透過性の骨病変、生後24時間以内に出現した黄疸、低出生体重、溶血性貧血、間質性肺炎





7

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

8

表1 先天性風疹症候群の臨床像

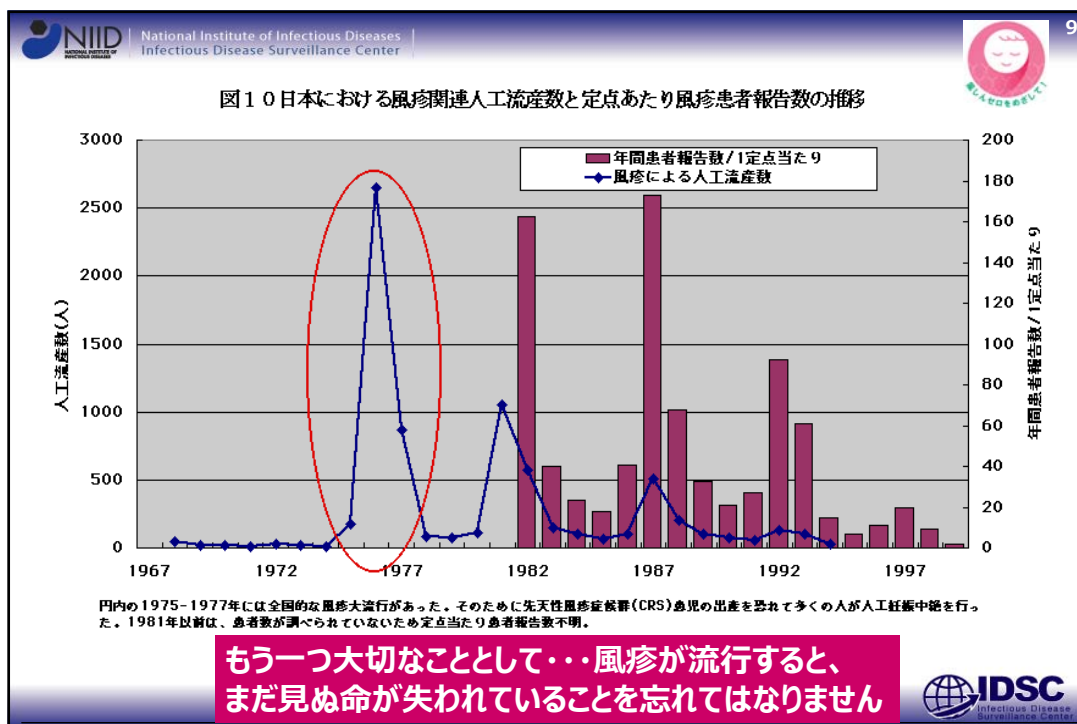
カテゴリー	しばしばみられる症状	まれにみられる症状
出生時にみられる	低出生体重 血小板減少性紫斑病 肝腫大 脾腫大 骨病変	角膜混濁 肝炎 全身性リンパ節腫脹 溶血性貧血 肺炎
一過性		
永久的	感音性難聴 末梢性肺動脈狭窄 肺動脈弁狭窄 動脈管開存 心室中隔欠損症 網膜症 白内障 小眼球症 精神運動発達遅滞 停留精巣 風疹ヘルニア 糖尿病	高度の近視 甲状腺異常 掌紋異常 緑内障 心筋障害
遅発性	末梢性肺動脈狭窄 精神発達遅滞 中枢性言語障害 糖尿病 免疫複合体病 低ガンマグロブリン血症	高度の近視 甲状腺炎 甲状腺機能低下 成長ホルモン欠損症 慢性発疹 肺炎 進行性全脳炎

Banatvala JE, Best JM, Rubella. In: Brown F, Wilson R (eds) Topley and Wilson's Principles of Bacteriology, Virology, and Immunity, vol.4, 7th ed. London, Edward Arnold, 1984, pp 271-302 引用改変

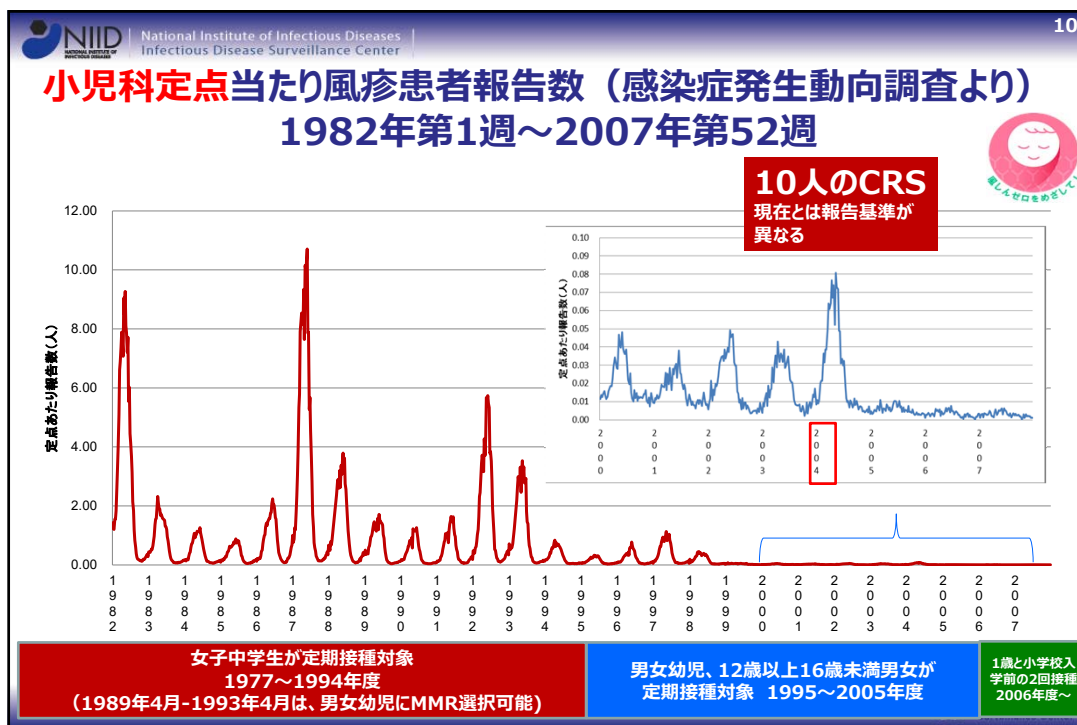
Maldonado YA. (2012): Rubella virus. In: Principles and Practice of Pediatric Infectious Diseases (4th ed.): Long SS, Pickering LK, Prober CG (Eds). Elsevier, Churchill Livingstone. より引用翻訳

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

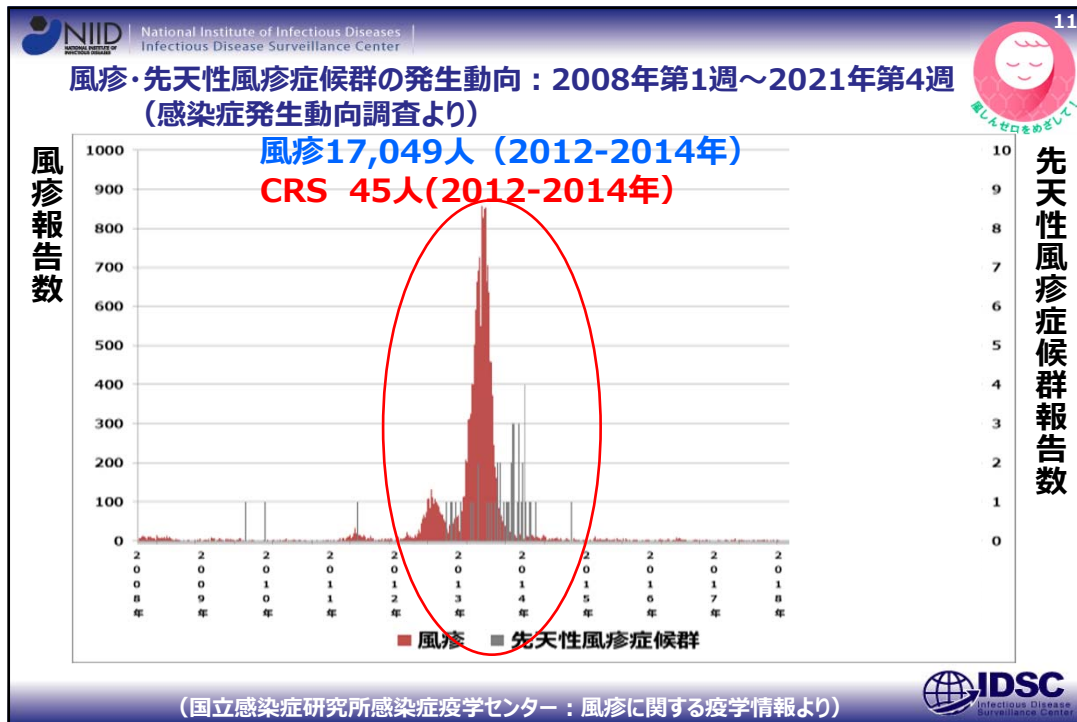
8



9



10



11

風しんに関する特定感染症予防指針
【平成二十六年三月二十八日】
（厚生労働省告示第122号）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号）第十一條第一項及び予防接種法（昭和二十三年法律第六十九号）第四條第一項の規定に基づき、風しんに関する特定感染症予防指針を次のとおり定めること。感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第十一條第一項及び予防接種法第四條第四項の規定により告示。平成二十六年四月一日から適用する。

風しんに関する特定感染症予防指針

風しんは、発熱、発疹、リンパ節腫大を特徴とする風しんウイルスによる感染症である。一般的に軽症は短期間で回復するが、胎児への感染は先天性風疹症候群（CRS）の原因となる。CRSは胎児に重篤な障害をもたらす。また、妊婦が妊娠三半期までに感染すると、自然流産、先天性心疾患、聴覚障害を特徴とする先天性風しん症候群の発症が認められる可能性がある。

我が国においては、平成の初め頃まで毎年数千人の患者が発生し、また、ほとんどの成人は接種済む年齢の予防接種率が高かった。昭和五十二年八月から先天性風しん症候群の予防を主目的として中学生女子を対象に行ったことの結果、平成五十四年以降、風しんの定数の予防接種率として、厚生労働省の調査員に対して風しんを含む風しん・おたふく病（MMSC）ワクチンの接種が可能となったが、おたふく病の発生に無関係な風しん症候群の発生率の増加から平成五十四年当該ワクチンの接種が開始された。その後、先天性風しん症候群の予防に加え、風しんの発生率の予防及び定数の減少を目的として、平成五十七年四月に接種対象者が男女幼児へと変更されるとともに、接種指針として中学生男女を対象に接種が行われた。しかしながら、当該接種指針対象者の接種率が低かったことから、平成五十八年十一月から平成五十九年三月まで接種指針として両者の接種の機会を設けられた。さらに、平成五十九年四月から、風しん・おたふく病（MMSC）ワクチンの接種を開始し、同年六月からは、風しん対策の必要を踏まえ、それまでの一部の接種から、追加接種として必要年齢接種開始年齢となることとし、平成五十九年四月から平成二十五年三月にかけて、中学生男女の接種（おたふく病の併発防止を主目的として併発の接種の機会を設けられた）。

風しんの発生動向調査については、昭和五十七年から平成十九年までほぼ毎週約二千四百から三千名程度の小児科の医療機関からの定点報告であったが、風しんの報告数の減少に伴い、

2014年3月28日
厚生労働省告示第122号

12

風しんに関する特定感染症予防指針一部改正 2018年1月1日適用



- 風疹と診断したら氏名、生年月日、住所、職業等を含めて、保健所に**直ちに届出**！
- **1例発生したらすぐ積極的疫学調査**！
- **原則として、全例の検査診断**！（地方衛生研究所でPCR法等による風疹ウイルス遺伝子の検出と遺伝子型検査）



風しん発生届の改訂



風疹診断例については、届出後であっても、血清抗体価の測定を実施するとともに、所在地の地方自治体に検体提出し、その結果について最寄りの保健所に報告していただき、検査結果等を総合的に勘案し、風しんでないと判断された場合は届出の取り下げ等のご協力いただけますようお願いいたします。

別記様式 ち—2 1 **風 し ん 発 生 届**

都道府県知事（保健所設置市長・特別区長）殿

保健所長 殿

報告年月日 平成 年 月 日

届出者氏名 性別 生年月日 診断時の年齢（0歳は月齢） 当該者職業

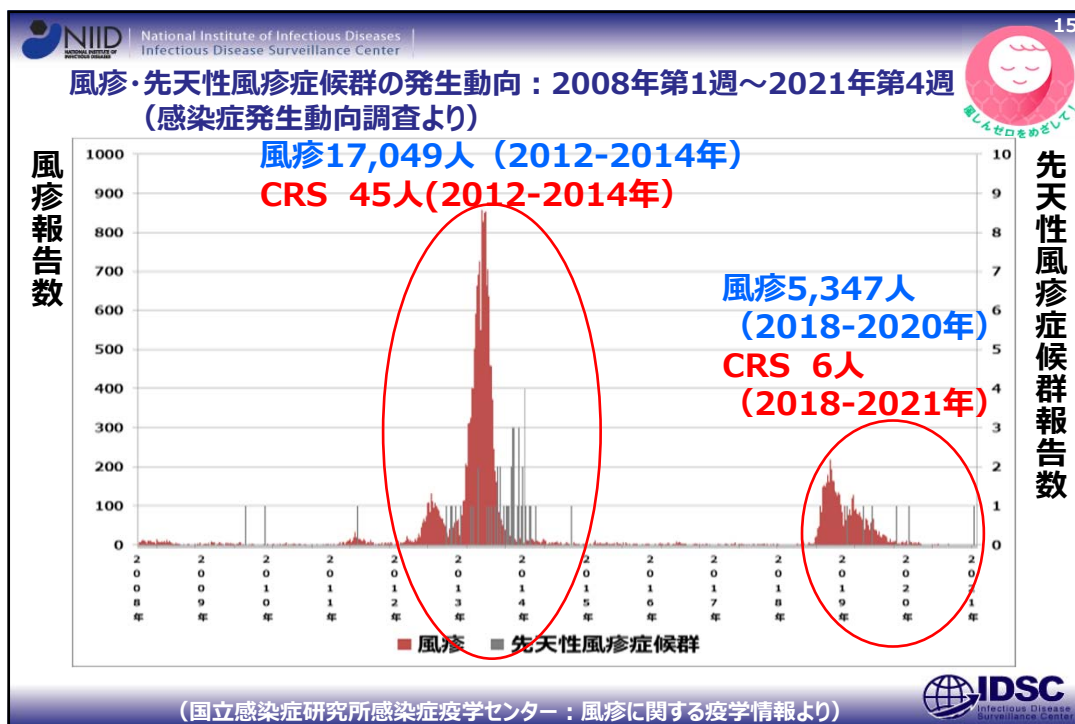
住所 電話

保護者氏名 保護者住所（0、10は患者が未成年の場合のみ記入）

届出理由

1 診断（検査）した者（死体）の種類	2 性別	3 生年月日	4 診断時の年齢（0歳は月齢）	5 当該者職業
6 当該者住所	7 電話	8 保護者氏名	9 保護者住所	10 保護者職業
11 風しん（検査診断例）				
11-1 発熱（月 日出現）	11-2 咳	11-3 結核完血	11-4 発疹（月 日出現）	11-5 シンデローム
11-6 関節痛・関節炎	11-7 血小板減少性紫斑病	11-8 脳炎	11-9 急性眼炎の出現	11-10 その他
12 風しん（検査診断例）				
12-1 風しん（検査診断例）	12-2 風しん（臨床診断例）	12-3 血清抗体価の測定	12-4 血清抗体価の測定	12-5 血清抗体価の測定
12-6 血清抗体価の測定	12-7 血清抗体価の測定	12-8 血清抗体価の測定	12-9 血清抗体価の測定	12-10 血清抗体価の測定
13 感染原因・感染経路・感染地域				
13-1 飛沫感染（感染源となった風しん患者・状況）	13-2 接触感染（感染源となった風しん患者・物の種類・状況）	13-3 その他	13-4 推定	13-5 推定
13-6 感染地域	13-7 感染地域	13-8 感染地域	13-9 感染地域	13-10 感染地域
14 初診年月日				
15 診断（検査）年月日				
16 感染したと推定される年月日				
17 発症年月日				
18 死亡年月日				
19 その他				





15

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

16

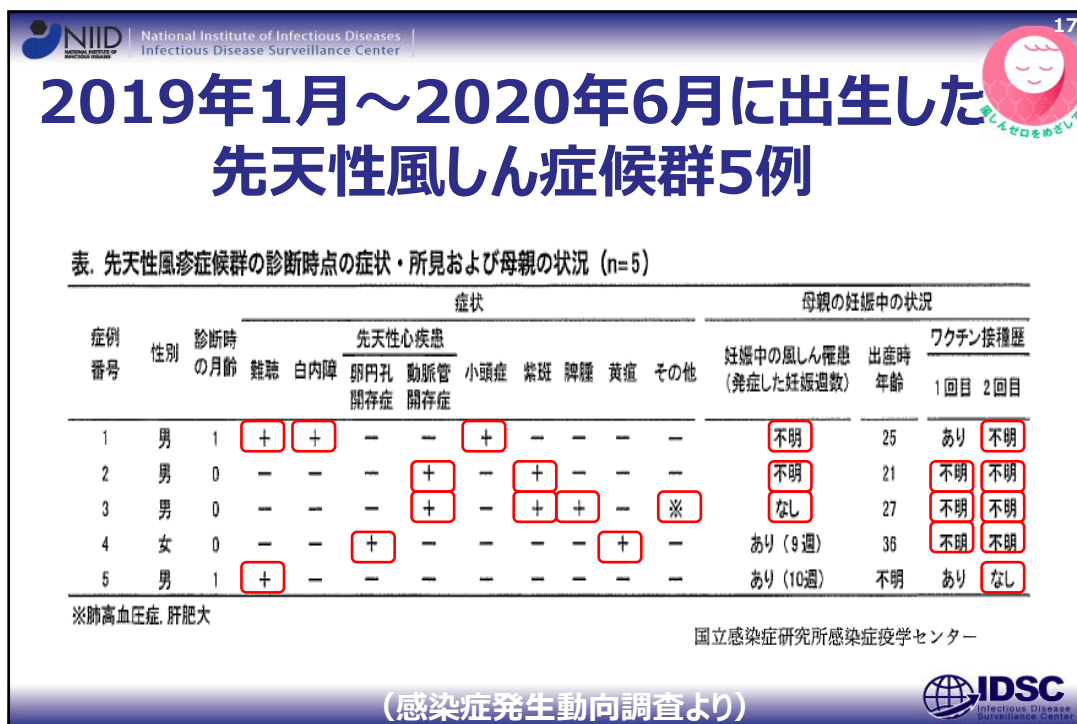
2019年1月～2021年1月に報告された
先天性風疹症候群 6例

年	診断週	報告都道府県	感染地域※	性別	母親のワクチン接種歴	母親の妊娠中の風疹罹患歴
2019年 (n=4)	4週	埼玉県	埼玉県	男	あり (回数不明、接種日不明、種類不明)	不明
	17週	東京都	東京都	男	不明	不明
	24週	大阪府	大阪府	男	不明	なし
	44週	東京都	東京都	女	不明	あり
2020年 (n=1)	2週	福島県	神奈川県	男	あり (1回、接種日不明、種類不明)	あり
2021年 (n=1)	2週	岡山県	大阪府	男	あり (1回、接種年：令和2年、種類：風疹単抗原)	なし

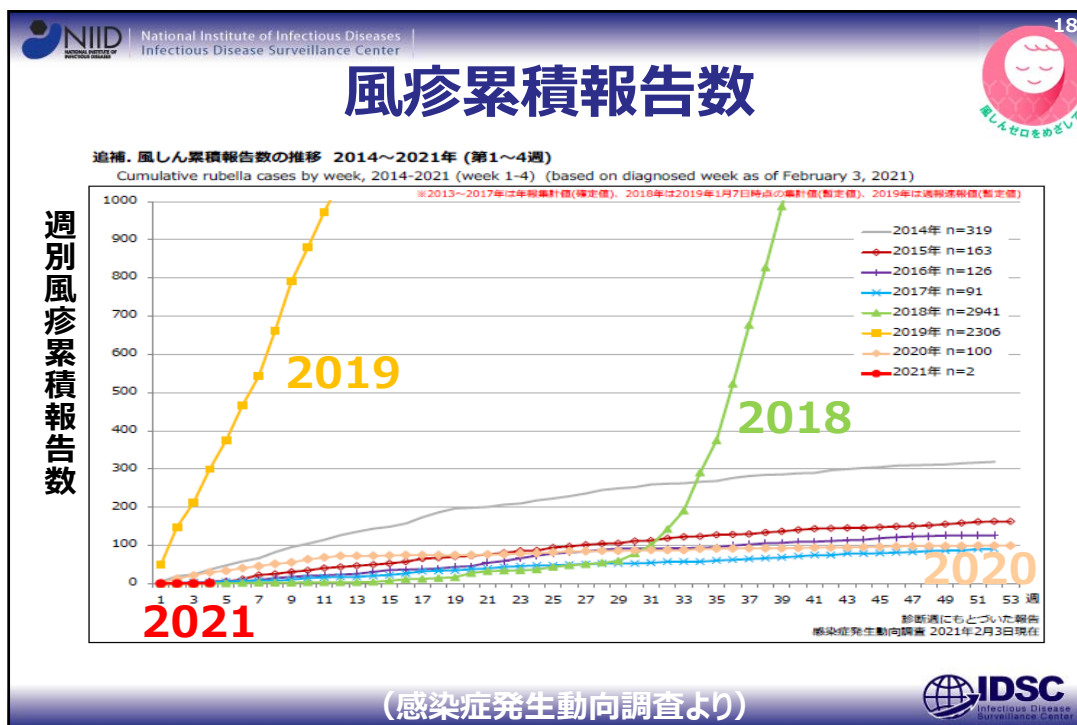
(感染症発生動向調査より)

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

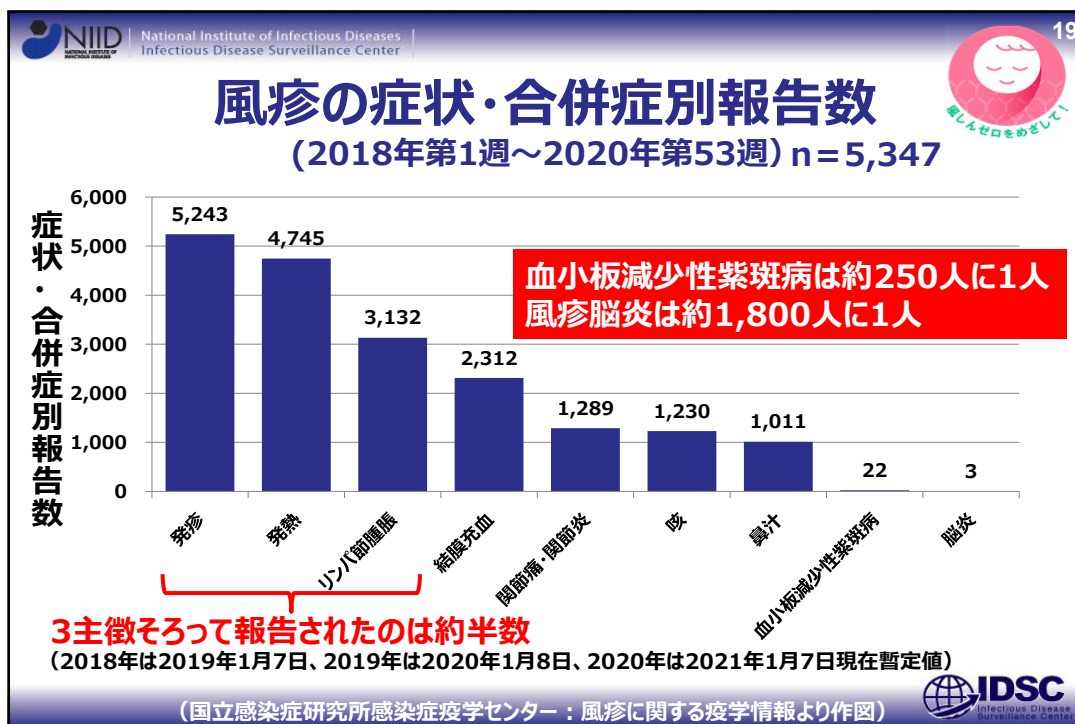
16



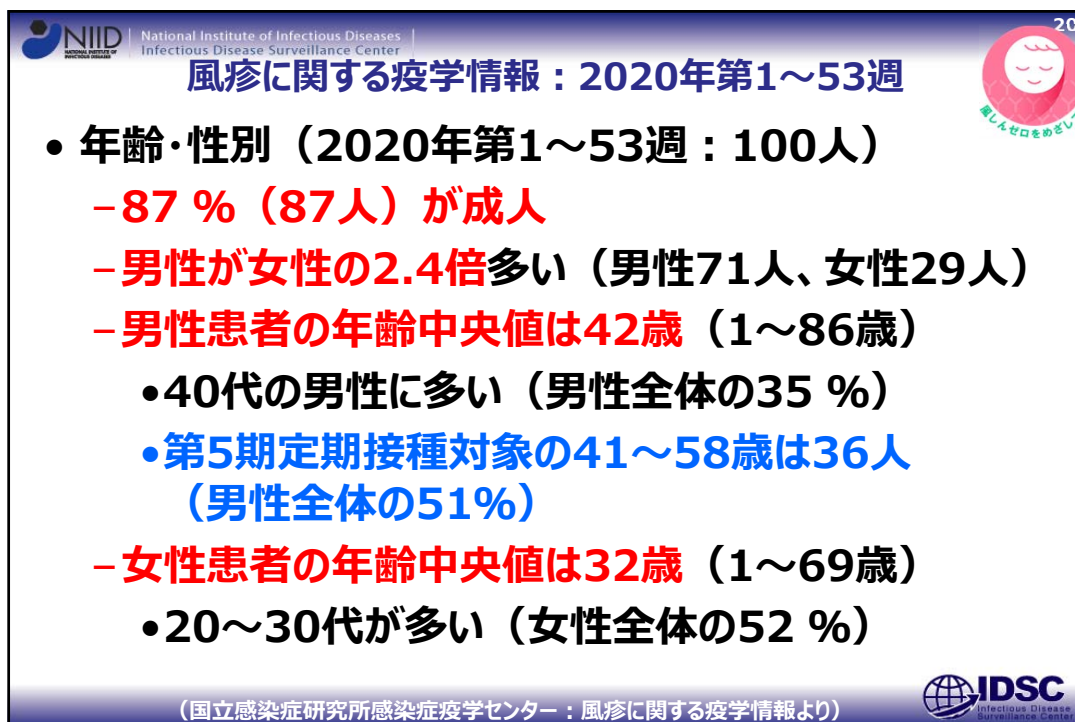
17



18



19



20

NIID National Institute of Infectious Diseases | Infectious Disease Surveillance Center

風疹に関する疫学情報：2020年第1～53週

21

● 職業（2020年第1～53週：100人）

- 会社員が23人（23%）と最多
- 配慮が必要な職種として、
 - 医師が1人
 - 作業療法士が1人
 - 教職員が2人
 - 消防職員が1人

(国立感染症研究所感染症疫学センター：風疹に関する疫学情報より)

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

21

NIID National Institute of Infectious Diseases | Infectious Disease Surveillance Center

風疹に関する疫学情報：2020年第1～53週

22

● 予防接種歴（2020年第1～53週：100人）

- なし（16人：16%）
- 不明（66人：66%）
- 1回接種歴有り（16人：16%）
 - 接種年月日、ロット番号ともに報告されたのは3人
 - 接種年月日のみが報告されたのは5人
 - 接種年月のみが報告されたのは1人
 - 接種年月日・ロット番号ともに不明が7人
- 2回接種歴有り（2人：2%）
 - 1人は接種年月日のみ
 - 1人は接種年月日・ロット番号ともに不明

(国立感染症研究所感染症疫学センター：風疹に関する疫学情報より)

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

22

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

23

風疹に関する疫学情報：2020年第1～53週

- 検査診断の方法（重複あり）（2020年第1～53週：100人）
 - 血清IgM抗体を検出が67人（67%）と最多
 - このうち1人は髄液IgM抗体も陽性
 - IgM抗体価が報告された66人中2.0未満の低いIgM抗体価の者が26人（IgM抗体陽性者の39%）
 - PCR法によるウイルス遺伝子の検出が31人（31%）
 - 10人については遺伝子型検査あり：1Eが5人、2Bが3人、型別不能が2人
 - ペア血清による風疹抗体有意上昇は3人（3%）
 - 検査診断が実施されていない臨床診断例は5人（5%）
 - 麻疹（臨床診断例）として保健所に受理された後、検査診断の結果、風疹（検査診断例）に届出が変更された症例が4人

(国立感染症研究所感染症疫学センター：風疹に関する疫学情報より)

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

23

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

24

男女別予防接種歴別風疹報告数：2020年第1週～第53週

● 男性

5-1. 年齢別接種歴別風疹人集積報告数（男性）2020年第1～53週（n=71）
Cumulative rubella cases (male) by age and vaccinated status, week 1-53, 2020 (as of January 7, 2021)

風疹報告数

年齢

● 女性

5-2. 年齢別接種歴別風疹人集積報告数（女性）2020年第1～53週（n=29）
Cumulative rubella cases (female) by age and vaccinated status, week 1-53, 2020 (as of January 7, 2021)

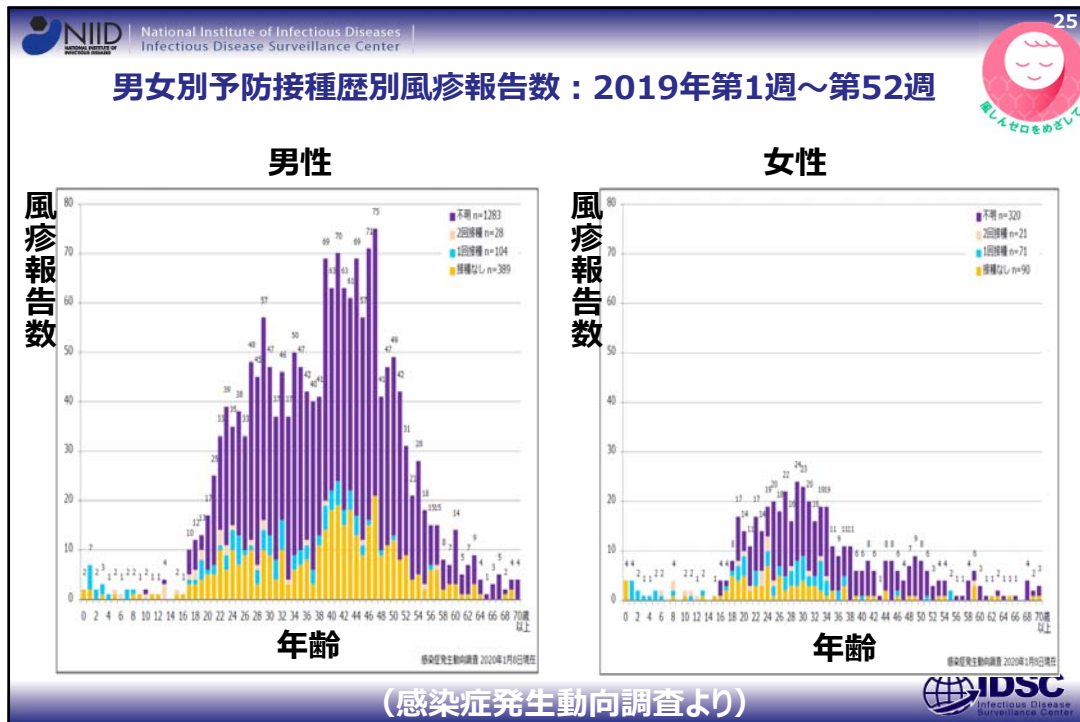
風疹報告数

年齢

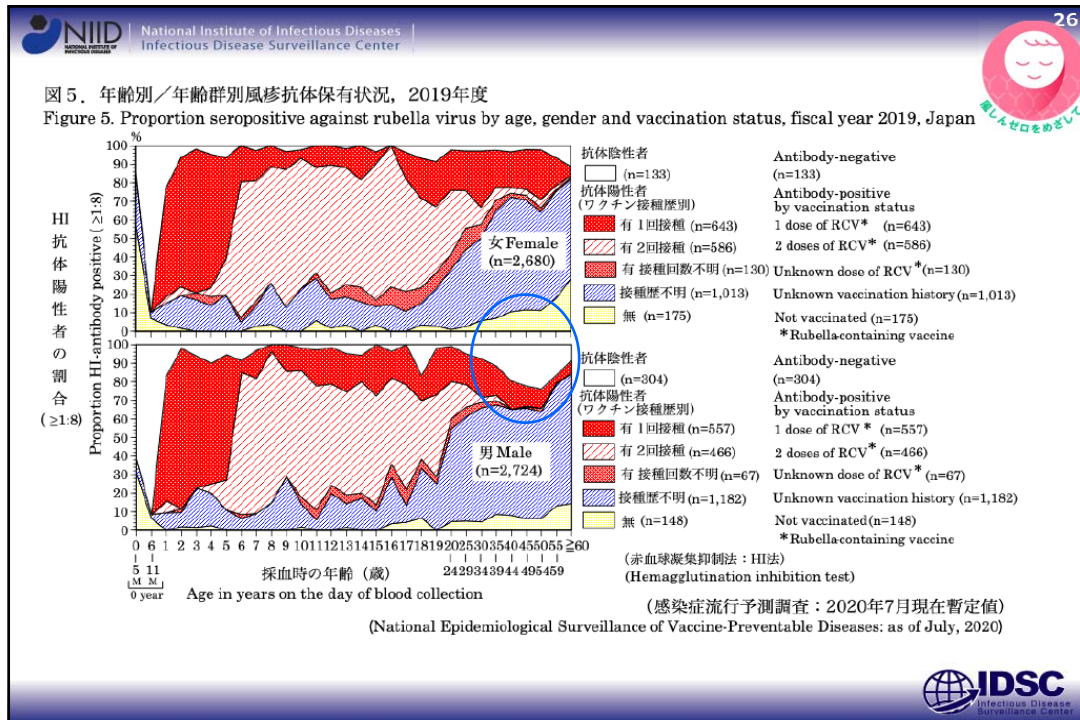
(感染症発生動向調査より)

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

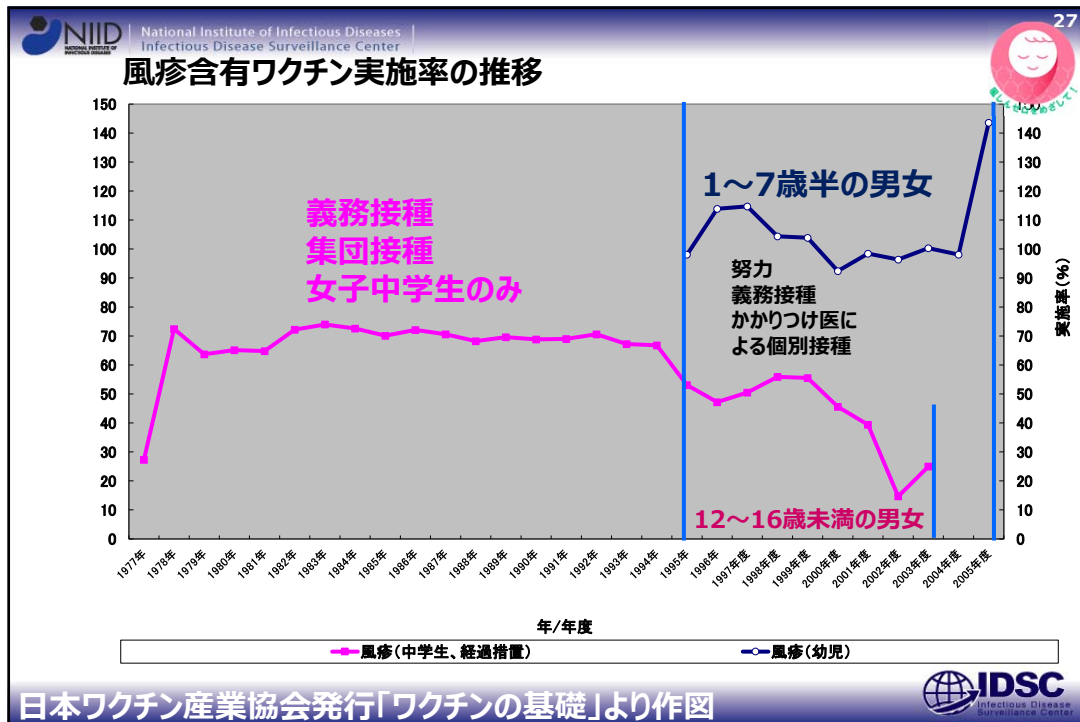
24



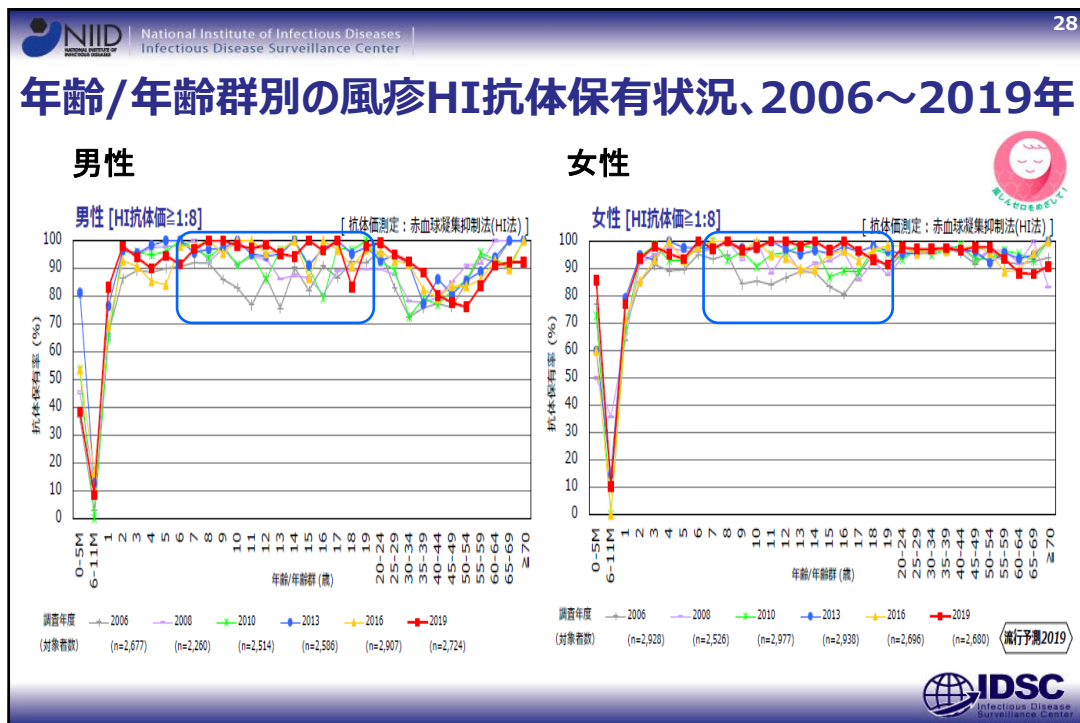
25



26



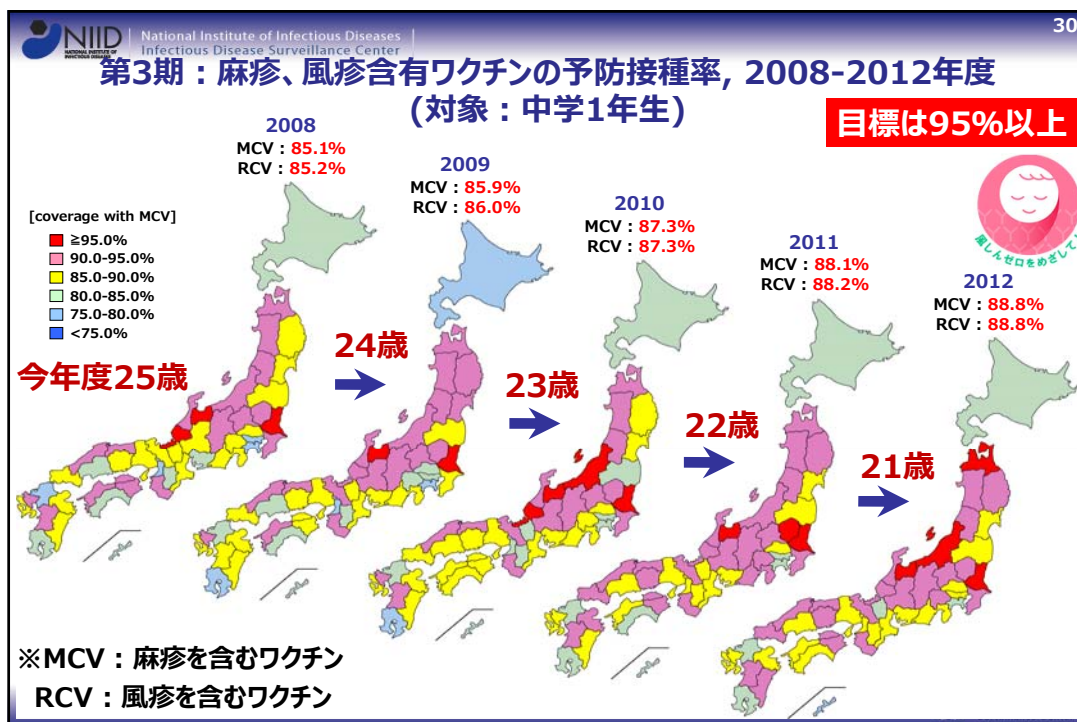
27



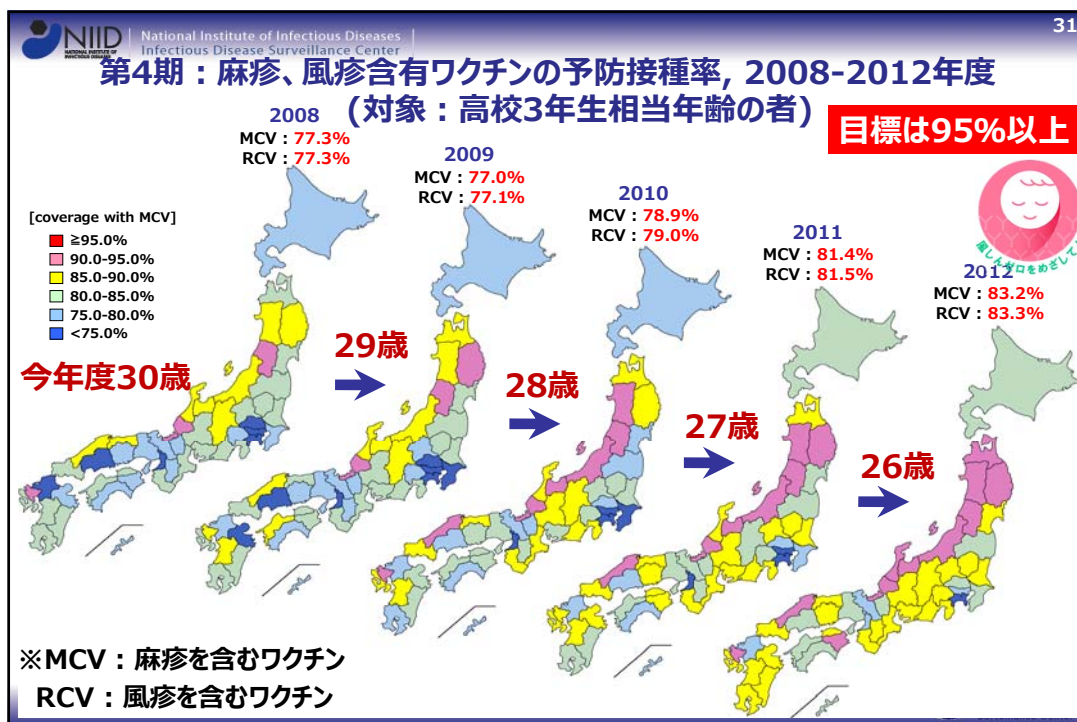
28



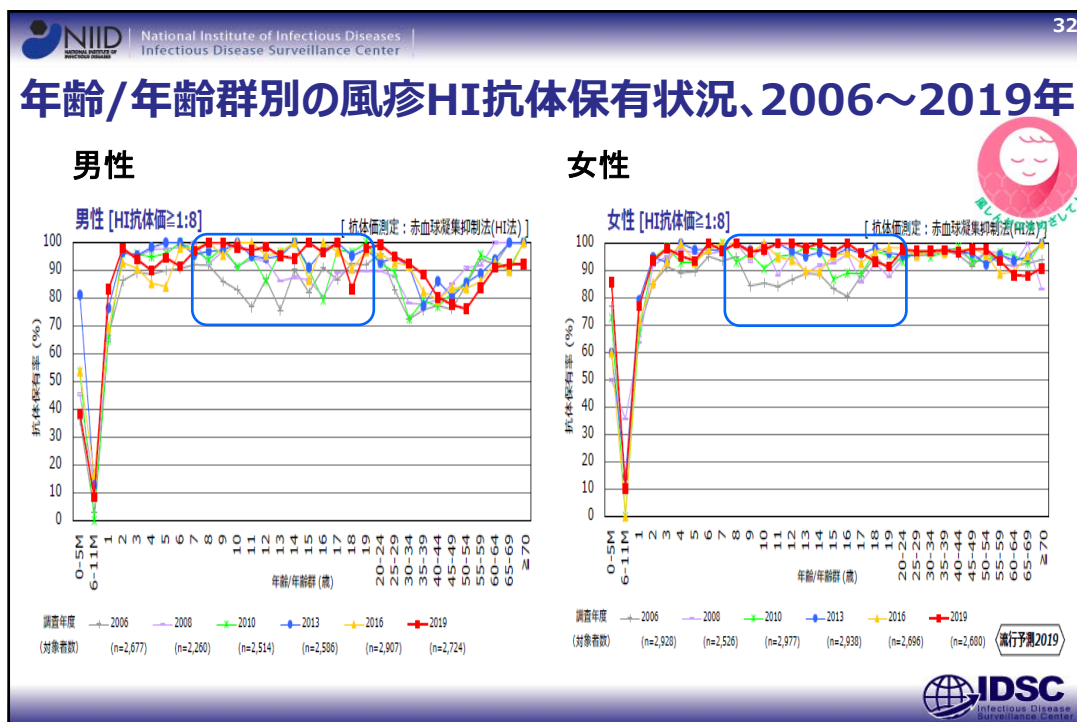
29



30



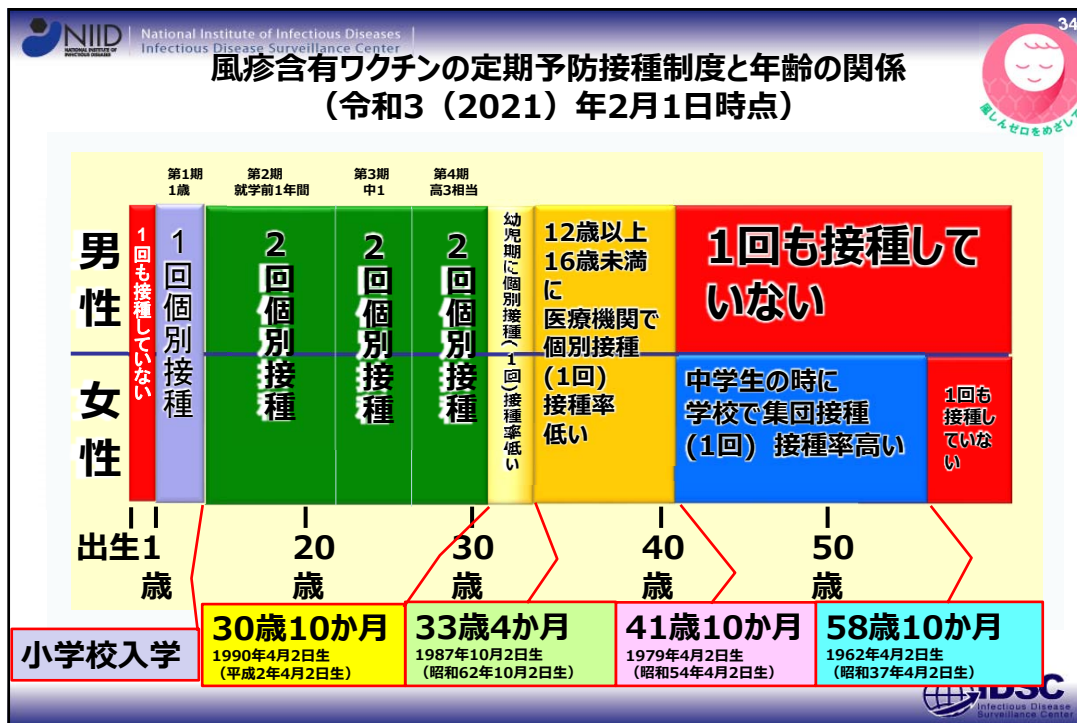
31



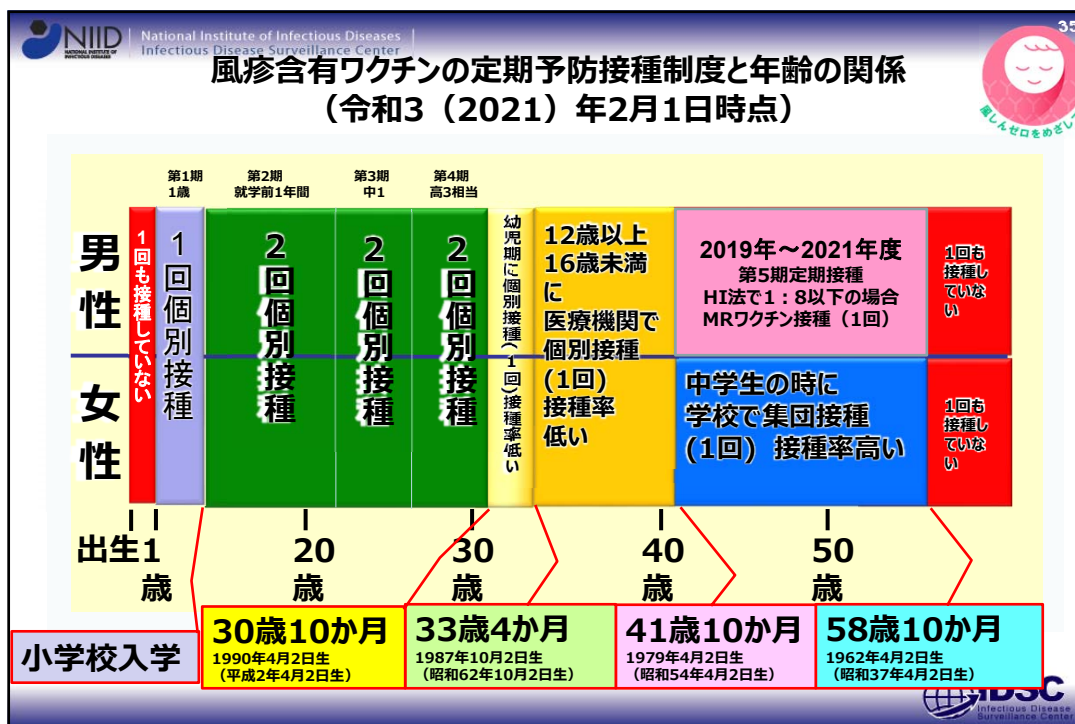
32



33



34



35

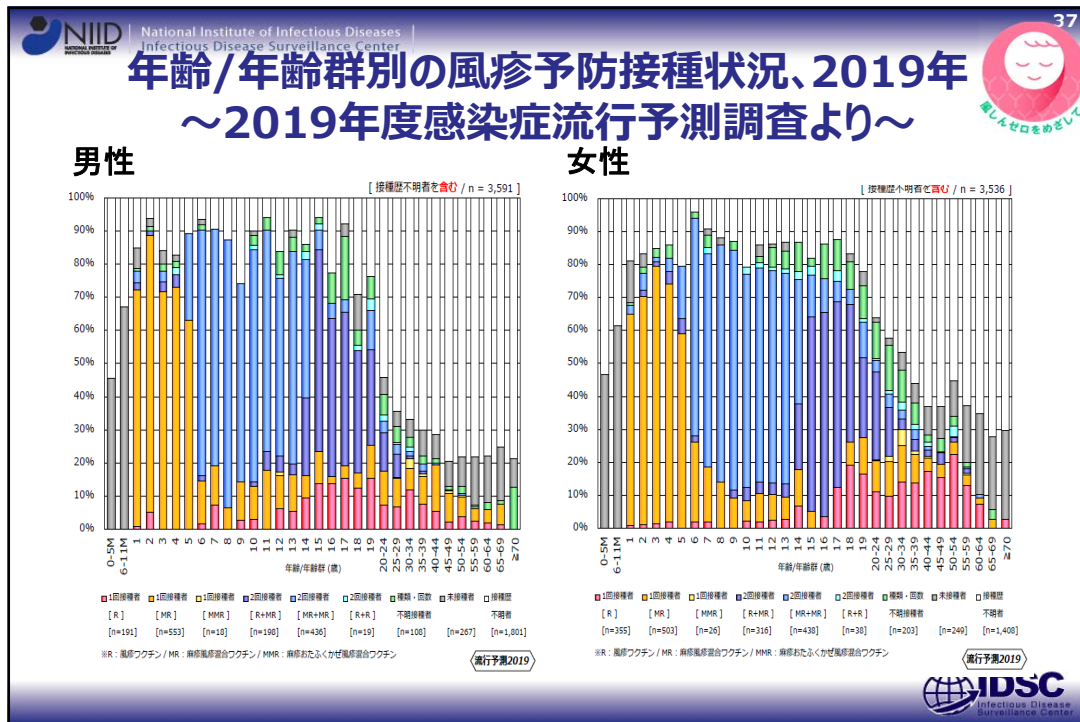
NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

第5期風疹定期予防接種

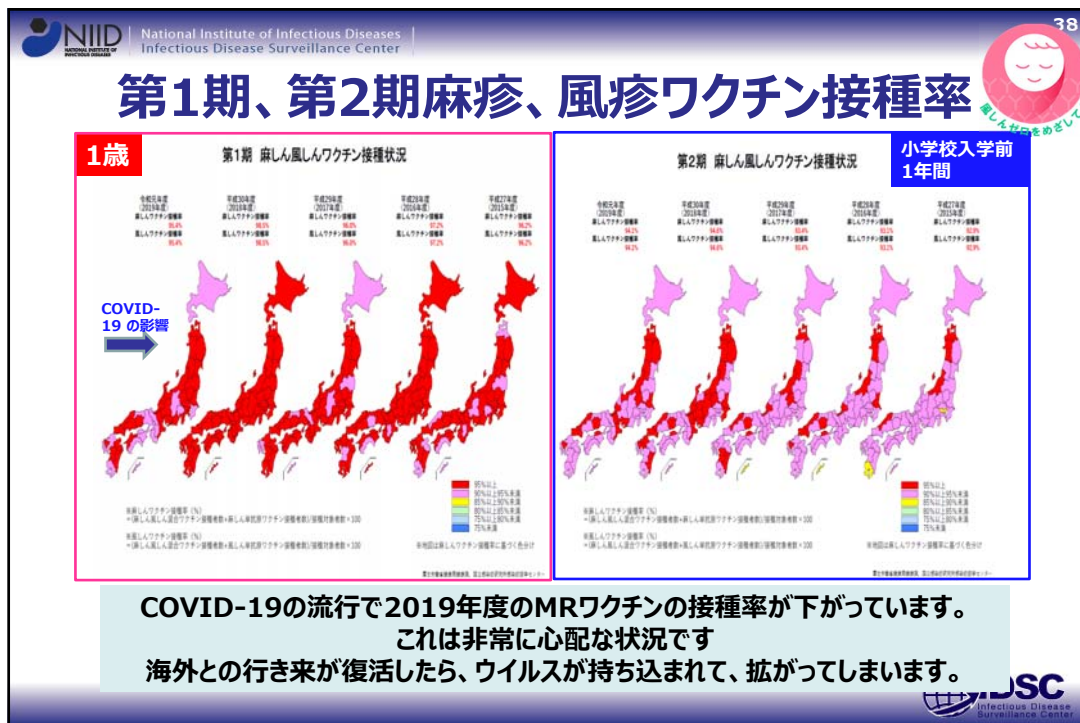
- 2019年～2022年3月までの制度
- 対象は**昭和37年4月2日～昭和54年4月1日**生まれの男性
：現在風疹抗体保有率約80%
- 風疹抗体検査を受けて**HI法で1:8以下相当**の場合、原則、麻疹風疹混合(MR)ワクチンを使用して定期接種
- 集合契約(クーポン券使用)の場合は、**MRワクチンのみ**の使用
- 2021年7月までに、対象世代の男性の抗体保有率を**85%**に引き上げる
- 2021年度末までに、対象世代の男性の抗体保有率を**90%**に引き上げる

NIID Infectious Disease Surveillance Center

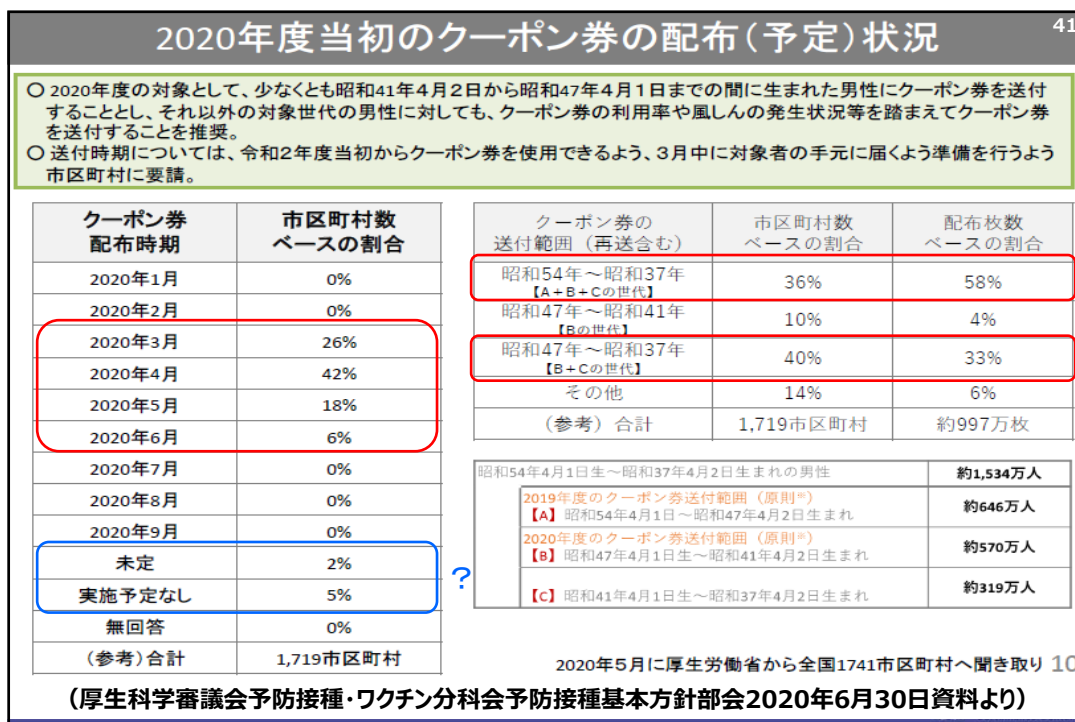
36



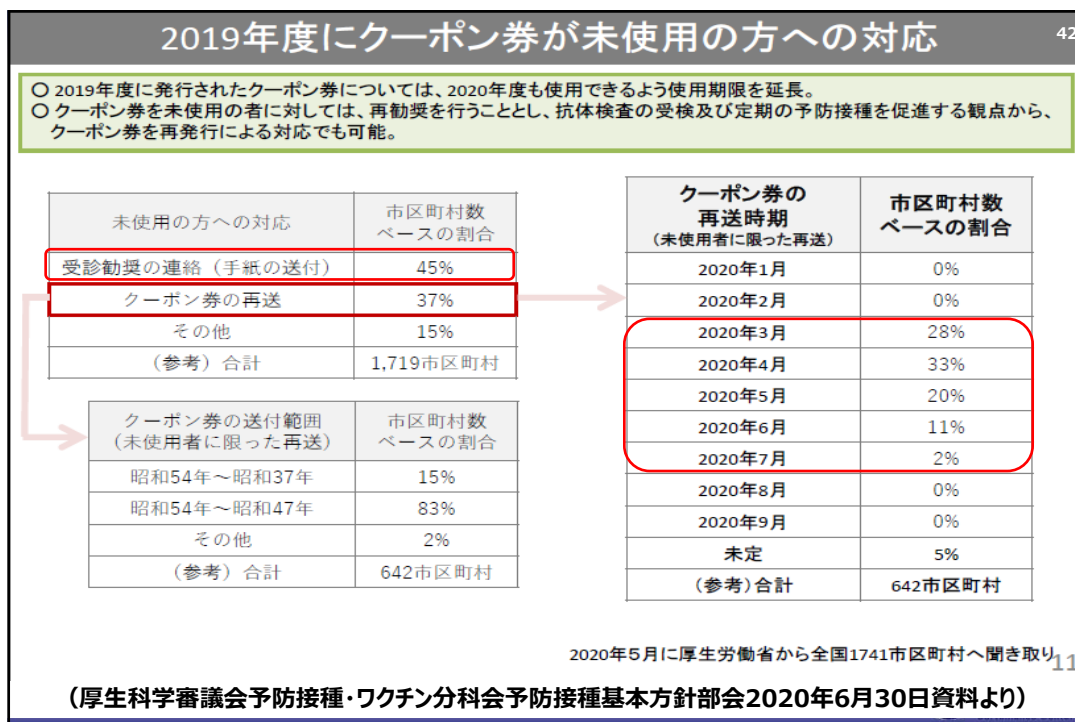
37



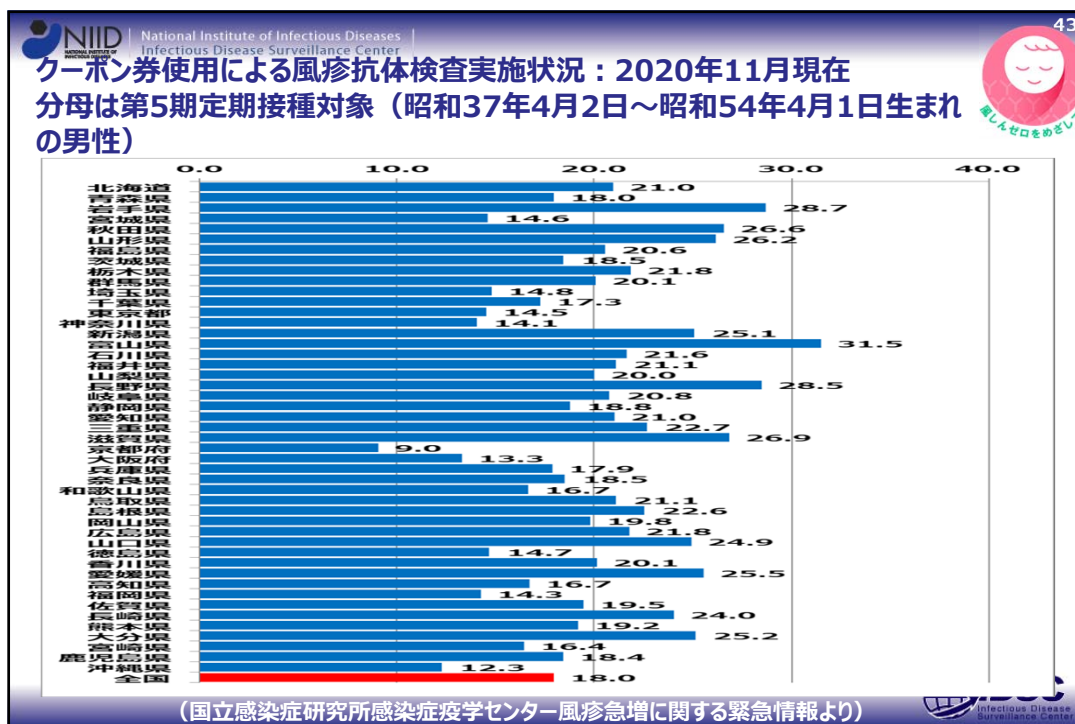
38



41



42



43

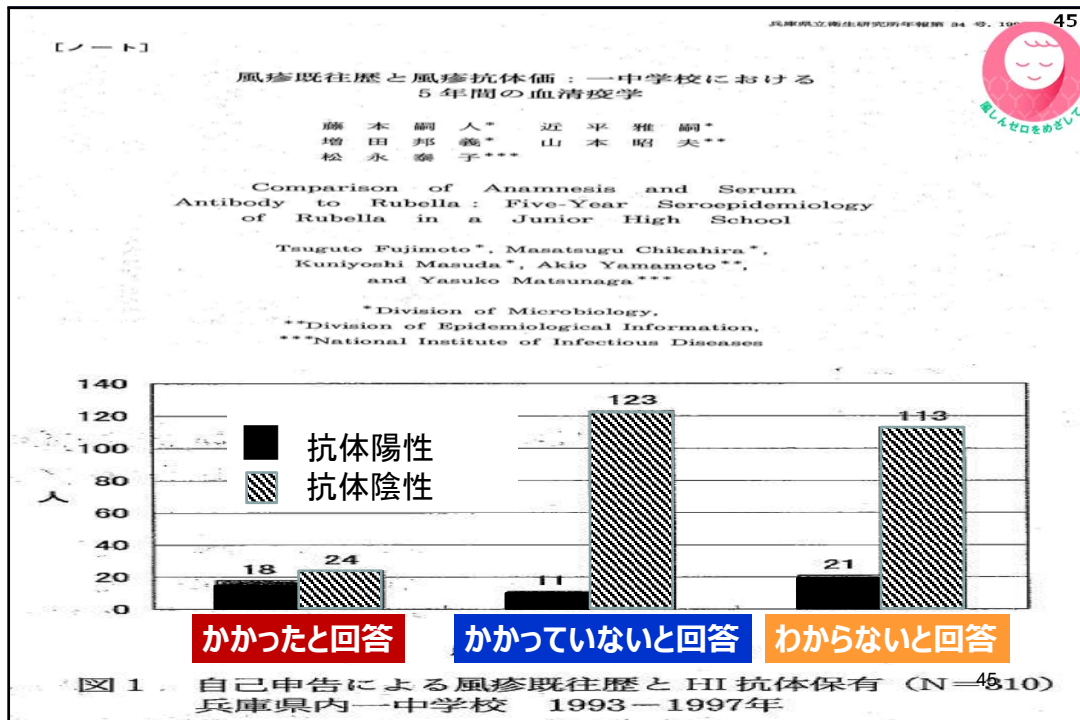
NIID National Institute of Infectious Diseases
Infectious Disease Surveillance Center

風疹第5期 クーポン券使用状況

- 2019年4月1日時点の第5期定期接種対象（昭和37年4月2日～昭和54年4月1日生まれ）の男性人口は全国で**15,374,162人**
- 2020年11月までに**抗体検査を受けた人が2,826,590人**（クーポン券使用2,760,283人、自治体66,307人）で**対象男性人口の18.4%**
- 2020年11月までに**予防接種を受けた人は578,085人**（クーポン券使用564,988人、自治体13,097人）で**対象男性人口の3.8%**

(国立感染症研究所感染症疫学センター風疹急増に関する緊急情報より)

44



45

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

46

風しんゼロをめざして

医療関係者のための ワクチンガイドライン 第3版


一般社団法人日本環境感染学会
 ワクチン委員会
2020.6.15.

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

46

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center 47

一般社団法人 日本環境感染学会 ワクチン委員会



三鴨 廣繁	愛知医科大学大学院医学研究科臨床感染症学 教授 (委員長)
多屋 馨子	国立感染症研究所感染症疫学センター 室長 (副委員長)
石黒 信久	北海道大学病院 感染制御部 部長/診療教授 (担当理事)
岩田 敏	国立がん研究センター中央病院 感染症部長
内田 美保	公立小松大学 保健医療学部看護学科 教授
岡田 賢司	福岡看護大学 基礎・基礎看護部門 教授
金井信一郎	信州大学医学部附属病院 感染制御室 副室長
豊川 真弘	福島県立医科大学 新医療系学部設置準備室
中野 貴司	川崎医科大学 総合医療センター 小児科 教授
藤村 茂	東北医科薬科大学 臨床感染症学 教授
山岸 由佳	愛知医科大学病院 感染症科 教授


IDSC Infectious Disease Surveillance Center

47

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center 48

医療関係者のためのワクチンガイドライン第3版
(麻疹、風疹、おたふくかぜ、水痘ワクチン)

環境感染誌 Vol. 35, Suppl. II, 2020



2 麻疹、風疹、流行性耳下腺炎、水痘ワクチン

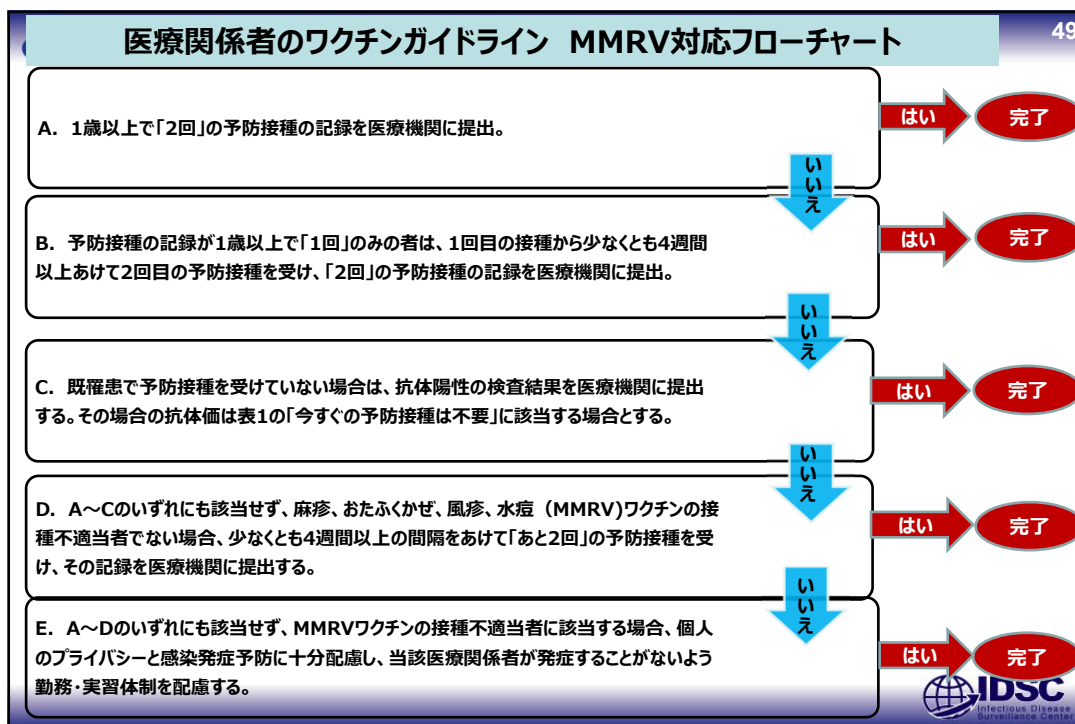
Recommendations

- ・1歳以上で「2回」の予防接種の記録を勤務・実習前に医療機関に提出することを原則とする。
- ・予防接種の記録が1歳以上で「1回」のみの者は、1回目の接種から少なくとも4週間以上あけて2回目の予防接種を受け、「2回」の記録を勤務・実習前に医療機関に提出することを原則とする。
- ・既罹患で予防接種を受けていない者は、勤務・実習前に抗体陽性の検査結果を提出することを原則とする。
- ・上記のいずれにも該当しない者は、少なくとも4週間以上あけて「2回」の予防接種を受け、その記録を勤務・実習前に医療機関に提出することを原則とする。
- ・勤務・実習中は、予防接種・罹患・抗体価の記録を本人と医療機関で年数に関わらず保管する。
- ・1歳以上で「2回」の予防接種の記録がない、または、免疫が不十分（抗体陰性または低抗体価）であるにもかかわらず、ワクチン接種を受けることができない医療関係者については、個人のプライバシーと感染発症予防に十分配慮し、当該医療関係者が発症することがないよう勤務・実習体制を配慮する。
- ・本稿での医療関係者とは、事務職、医療職、学生を含めて、受診患者と接触する可能性のある常勤、非常勤、派遣、アルバイト、実習生、指導教官、業務として病院に出入りする者等に加えて、救急隊員、処方箋薬局で勤務する者を含むものとする。

要旨に記載した方針は何も変わっていません。
救急隊員、処方箋薬局で勤務する者を含むことが追加されました。

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

48



49

表1 MMRV抗体価と必要予防接種回数（予防接種の記録がない場合）

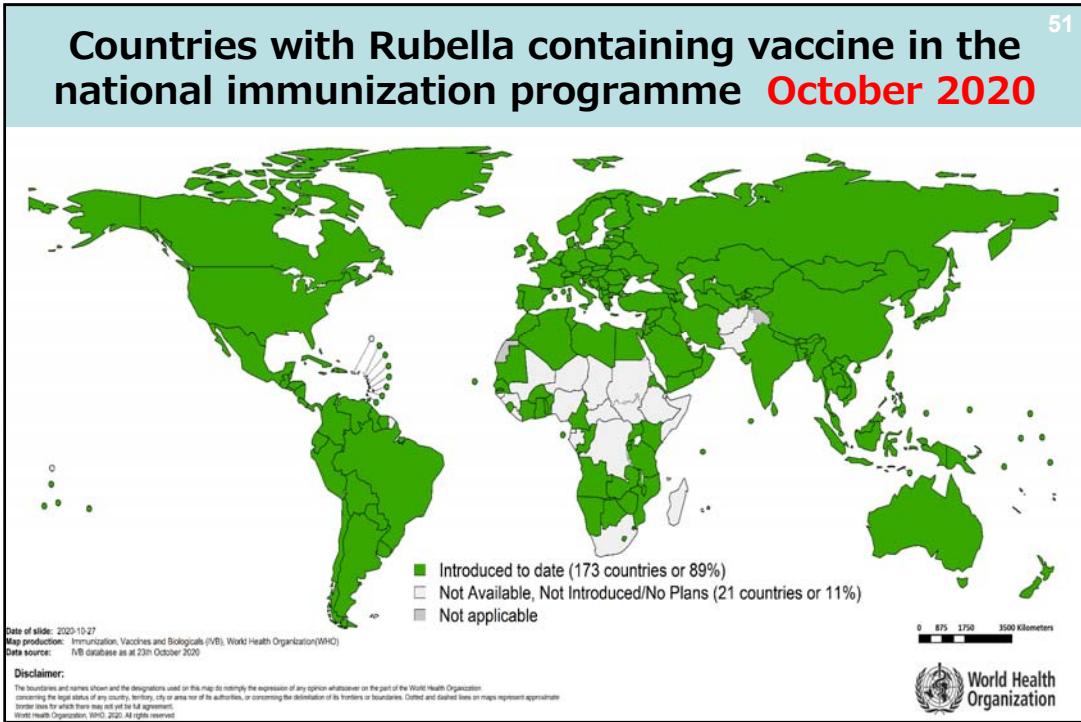
50

	あと2回の予防接種が必要	あと1回の予防接種が必要	今すぐの予防接種は不要
麻疹	EIA法 (IgG) 2.0未満 PA法1: 16未満 中和法1: 4未満	EIA法 (IgG) 2.0以上16.0未満 PA法1: 16、1: 32、1: 64、1: 128 中和法1: 4	EIA法 (IgG) 16.0以上 PA法1: 256以上 中和法1: 8以上
風疹	HI法1: 8未満 EIA法 (IgG) (A) 2.0未満 EIA法 (IgG) (B) ΔA0.100未満※: 陰性 ELFA法 (C) 10IU/mL未満 LTI法 (D) 6IU/mL未満 CLEIA法 (E) 10IU/mL未満 CLEIA法 (F) 抗体価4未満 FIA法 (G) 抗体価 (AI) 1.0未満 FIA法 (H) 10IU/mL未満 CLIA法 (I) 10IU/mL未満	HI法1: 8、1: 16 EIA法 (IgG) (A) 2.0以上8.0未満 EIA法 (IgG) (B) 30IU/mL未満 ELFA法 (C) 10以上45IU/mL未満 LTI法 (D) 6以上30IU/mL未満 CLEIA法 (E) 10以上45IU/mL未満 CLEIA法 (F) 抗体価4以上14未満 FIA法 (G) 抗体価 (AI) 1.0以上3.0AI未満 FIA法 (H) 10以上30IU/mL未満 CLIA法 (I) 10以上25IU/mL未満	HI法: 1: 32以上 EIA法 (IgG) (A) 8.0以上 EIA法 (IgG) (B) 30IU/mL以上 ELFA法 (C) 45IU/mL以上 LTI法 (D) 30IU/mL以上 CLEIA法 (E) 45IU/mL以上 CLEIA法 (F) 抗体価14以上 FIA法 (G) 抗体価 (AI) 3.0AI以上 FIA法 (H) 30IU/mL以上 CLIA法 (I) 25IU/mL以上
水痘	EIA法 (IgG) 2.0未満 IAHA法1: 2未満 中和法1: 2未満	EIA法 (IgG) 2.0以上4.0未満 IAHA法1: 2 中和法1: 2	EIA法 (IgG) 4.0以上 IAHA法1: 4以上 中和法1: 4以上
ムンプス	EIA法 (IgG) 2.0未満	EIA法 (IgG) 2.0以上4.0未満	EIA法 (IgG) 4.0以上

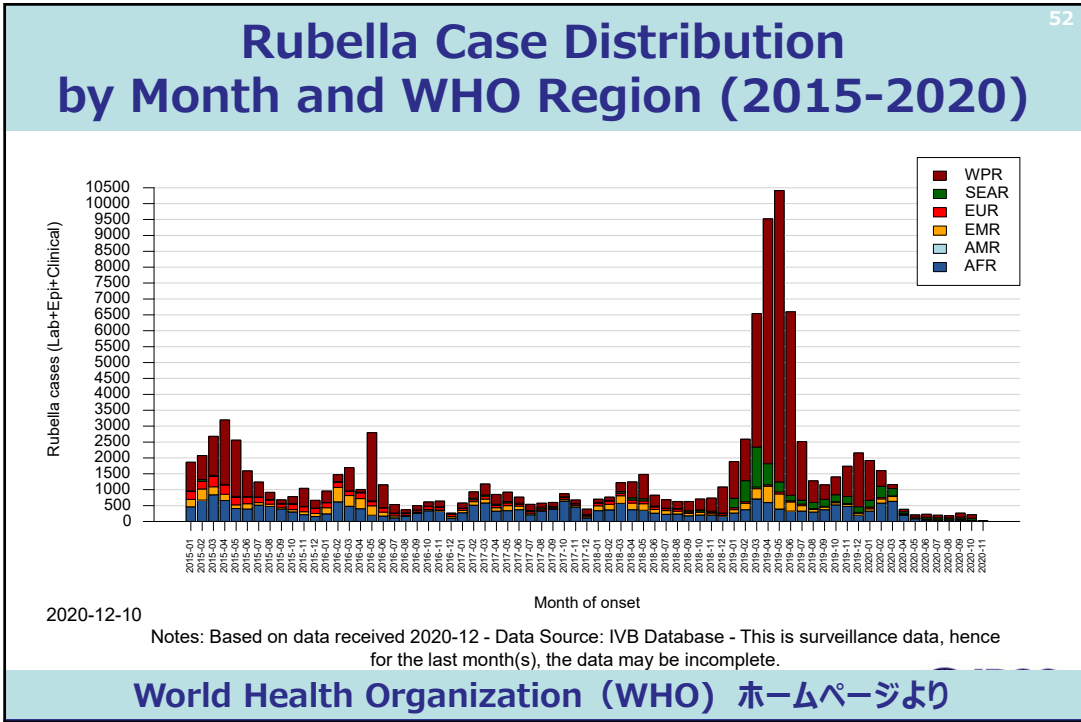
※ΔAIは、ベア穴の吸光度の差（陰性の場合、国際単位への変換は未実施）

F: 株式会社保健科学西日本 (i-アッセイCL風疹IgG)
G: バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社 (BioPlex MMRV IgG)
H: バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社 (BioPlex ToRC IgG)
I: アポットジャパン株式会社 (Rubella-Gアポット)

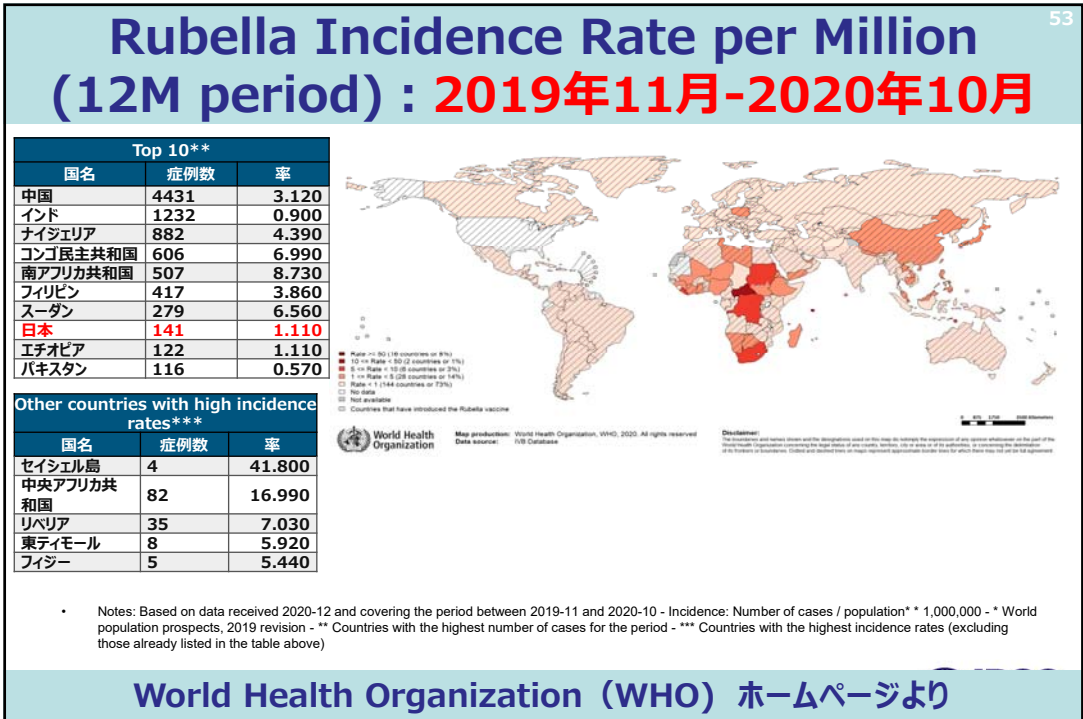
50



51



52



海外渡航で検討する予防接種の種類の日安

麻しんと風しんはすべての国・地域で◎


厚生労働省検疫所 FORTH ホームページ

地域及び滞在期間	黄熱	ポリオ	麻しん及び風しん◎※1	日本脳炎	A型肝炎	B型肝炎	狂犬病	破傷
東アジア			◎		◎			◎
東南アジア			◎		◎			◎
南アジア			◎		◎			◎
中近東		◎	◎		◎			◎
太平洋地域			◎		◎			◎
オセアニア			◎		◎			◎
北アフリカ		◎	◎		◎			◎
中央アフリカ	●	◎	◎		◎			◎
南アフリカ		◎	◎		◎			◎
北・西ヨーロッパ			◎		◎			◎
東ヨーロッパ		◎	◎		◎			◎
南ヨーロッパ			◎		◎			◎
ロシア			◎		◎			◎
北米			◎		◎			◎
中南米	●		◎		◎			◎

◎ : 予防接種をおすすめしています
● : 黄熱が感染するリスクがある地域
○ : 麻しん及び風しんの予防接種を検討してください

※1 : 今までに2回接種の既往がない方、もしくは接種既往が不明の方に予防接種をおすすめしています。麻しんもしくは風しんの予防接種には、麻しん風しん混合ワクチン（MRワクチン）の使用が推奨されます。妊娠期間中は予防接種を受けられません。麻しん・風しんについての詳しい情報は厚生労働省からの情報もしくはWHOのホームページをご参照下さい。

【注意】長期とは、およそ1か月以上の滞在する場合です。冒険旅行は短期であっても長期に含めます。



風しん 注意報 発令

風しんの予防接種で 未来の赤ちゃんを守れます


妊婦、とくに妊婦初期の女性が風しんにかかると、赤ちゃんにも感染し、耳が聞こえない、目が見えにくい、生まれつき心臓に病気がある、発達がゆっくりしているなど「先天性風しん症候群」という病気にかかってしまうことがあります。

女性は 妊婦前に 風しんの予防接種をご検討ください
 接種後2ヶ月経過後が必要です。 接種回数けずとも1回の接種1回のみです。

成人男性は 風しんにかかったことがない方 風しんワクチンを受けていない方 どちらにせよ 接種することをご検討ください
 2回接種しても問題はありませぬ。

妊婦中の 女性の家族は 風しんの予防接種をご検討ください
 妊婦は風しんの予防接種を受けられません。 妊婦の家族（同居の家族）は風しんの予防接種を受けると、妊婦に感染するおそれがあります。

妊婦中は 風しんの予防接種を受けることはできません



風疹はワクチンで 予防できる病気です あなたは風疹の予防 ずませていますか？

2019年～2022年3月 の約3年間、 昭和37年4月2日～ 昭和54年4月1日生まれの 男性は抗体検査（全額公費） を実施した上で、HI法で1:8以下 相当なら定期接種（A類疾病） として全額公費でMRワクチン接種

55



2月は風疹予防強化月間です。 2月4日は風（ふー）疹の日



“風疹ゼロ”プロジェクト を進めましょう
2月4日は風疹の日





56

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

57

風疹予防啓発ポスター：毎月発行

昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれのお男の子の皆様
風疹の抗体検査を受けましょう。抗体値が低かった場合は、
麻しん風しん混合ワクチンを受けましょう！

HI法で1:8以下なら定期接種で麻しん風しん混合ワクチンを受けられます。
HI法以外で検査した場合は、
URL: https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/Rubella-Hitter8_Ver3.pdf
を参照してください。

新型コロナウイルスは、心配だけ、風疹も心配……
風疹はワクチンがあるから、予防しておかなくて……

昭和37年4月2日から昭和54年4月1日生まれのお男の子の皆様
風疹の抗体検査を受けましょう。抗体値が低かった場合は、
麻しん風しん混合ワクチンを受けましょう！

HI法で1:8以下なら定期接種で麻しん風しん混合ワクチンを受けられます。
HI法以外で検査した場合は、
URL: https://www.niid.go.jp/niid/images/idsc/disease/rubella/Rubella-Hitter8_Ver3.pdf
を参照してください。

新型コロナウイルスは、心配だけ、風疹も心配……
風疹はワクチンがあるから、予防しておかなくて……

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

57

NIID National Institute of Infectious Diseases Infectious Disease Surveillance Center

58

風しん排除のロゴ

<http://www.niid.go.jp/niid/ja/rubella-m-111/rubella-top/700-idsc/7888.html>

風しん排除/Rubella elimination
ロゴのダウンロード
〔風しんゼロプロジェクト〕

〔ロゴのコンセプト〕
赤ちゃんを包む「おくるみ」をモチーフに、ロゴをデザインしました。
社会や周りの大人たちが赤ちゃんを包むように抱き守っている様子と、おくるみのイメージを重ね合わせています。
真ん中に配置されている顔は赤ちゃんを表しており、抱かれて安心して眠っています。
メインカラーは、風しんワクチンのイメージカラーであるピンクを基調にいたしました。
下部には風しんの抗体を配置し、現在の風しん排除の運動を表しています。
上半分は、その活動により風しんがなくなった未来を表しています。現在の私たちの活動が、風しんのない未来を支えています。

IDSC Infectious Disease Surveillance Center

58



**全国の医療機関、保健所、
地方衛生研究所、地方感染症情報センター
の皆さまに深謝いたします。**



国立感染症研究所 感染症疫学センター

**新井 智、有馬雄三、加納和彦、神谷 元、小林祐介、
駒瀬勝啓、島田智恵、新橋玲子、鈴木 基、砂川富正、
高橋琢理、多屋馨子、土橋酉紀、森野紗衣子、
八幡裕一郎**

国立感染症研究所 FETP

佐藤哲郎、中村晴奈、中下愛実

国立感染症研究所 ウイルス第3部

竹田 誠、森 嘉生



ご清聴ありがとうございました

